

中日本航空株式会社所属富士ベル式204B-2型JA9383の
航空事故調査について
(経過報告)

令和3年6月24日
運輸安全委員会（航空部会）

運輸安全委員会は、令和2年6月29日、兵庫県神崎郡福崎町内場外離着陸場において中日本航空株式会社所属富士ベル式204B-2型JA9383が着陸の際、強めの接地となり胴体下部付近の構造部材等を損傷した航空事故について、令和2年6月から原因を究明するために調査を進めてきたところであるが、事実情報に関する情報の入手、原因の分析及び再発防止策の検討のために更に一定の時間を要する状況である。このため、本件調査については、本事故発生日から一年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告内容については、今後、新しい情報や状況が判明した場合に変更することがあり得る。

また、本調査は、本件航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第13附属書に従い、運輸安全委員会により航空事故等の防止に寄与することを目的として行われているものであり、本事案の責任を問うために行われているものではない。

1. 航空事故の概要

中日本航空株式会社所属富士ベル式204B-2型JA9383は、機体空輸のため、操縦士1名及び整備士3名が搭乗し、奈良県ヘリポートから兵庫県神崎郡福崎町内場外離着陸場に飛行し、09時30分ごろ着陸した際、強めの接地となり、胴体下部スキッド取り付け部付近の構造部材等を損傷した。搭乗者4名に負傷はなかった。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和2年6月30日、本事故の調査を担当する主管調査官ほか1名の航空事故調査官を指名した。本調査には、エンジンの設計・製造国であるアメリカ合衆国の代表及び顧問並びにエンジンの整備国であるカナダ国の代表及び顧問が参加している。

現時点までに関係者からの口述聴取、機体調査等を実施した。

3. 判明している主な事実情報

(1) 飛行の経過

同機は、令和2年6月29日、機体空輸のため奈良ヘリポートを08時49分ごろ離陸し、福崎町内場外離着陸場に向けて飛行した。

同離着陸場上空に到着した際、機長は、エンジンに異音の発生とトルクの変動を認めた

ため、着陸時の横転を防ぐために機体姿勢の保持に注意しながら着陸したが強めの接地となった。

(2) 負傷者

なし

(3) 航空機の損傷

胴体・スキッド部：

機体下部の構造部材の座屈及び下部

装備品の損傷・脱落

クロスチューブの変形、左右ステップの割れ

客室内床面の盛り上がり



図1 主な機体損傷部

エンジン：

インレット部：

バリエブル・インレット・ガイド・ベーン：

全周のベーン（計 18 枚）の損傷

コンプレッサ部：

第1段コンプレッサ・ローター・ブレード：

全周のブレード（計 31 枚）の損傷 このうち、ブレード1枚は根元から 1/4 で破断

第1段コンプレッサ・ステーター：

全周のステーター（計 34 枚）の損傷 このうち、ステーター1枚は大きく折曲



図2 根元から 1/4 で破断したブレード



図3 大きく折曲したステーター

(4) 気象

天候は晴れでほぼ無風状態。事故現場から南東約 2 k m の福崎での観測では、本事案発生時間帯は南西の風 0.8 m/s、気温 24.8℃であった。

4. 今後の調査

航空機事故の原因の究明並びに事故の再発防止策の検討のために、これまでの調査によって得られた情報を基に、さらなる事実確認や分析を行う必要がある。

運輸安全委員会は、引き続き、調査や分析等によって得られた結果を踏まえて、本事故の原因の分析及び再発防止策の検討を行う予定である。また、原因関係者からの意見聴取及び調査参加国への意見照会を行う。